「日々の理科」（第 2218 号） 2020,-8,-7

「猛毒キノコの探究（５）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

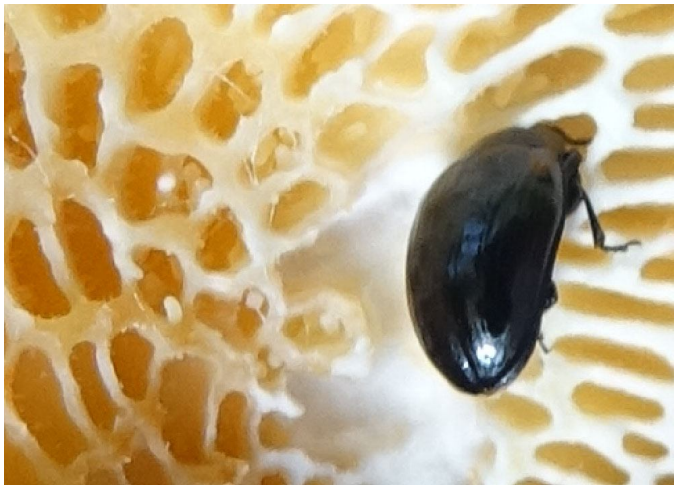
「自然の形や営みには必ず理由がある」・・・しかしほんのわずかに例外もある。その一つが「キノコの毒」である。大多数のキノコは毒を持っておらず、一部のキノコが毒を持つことには何の必然性もない。しかも、虫は猛毒のキノコでも平気で食用にする。「キノコが作った物質のいくつかが、ヒトにとって、偶然毒性を持っていた」と結論づけるしかなさそうだ。

キノコをエサにする虫は多い。キノコムシ、キノコバエ、カマドウマ、ハサミムシなどだ。これらは猛毒のキノコでも平気で食べるし、中毒も起こさない。

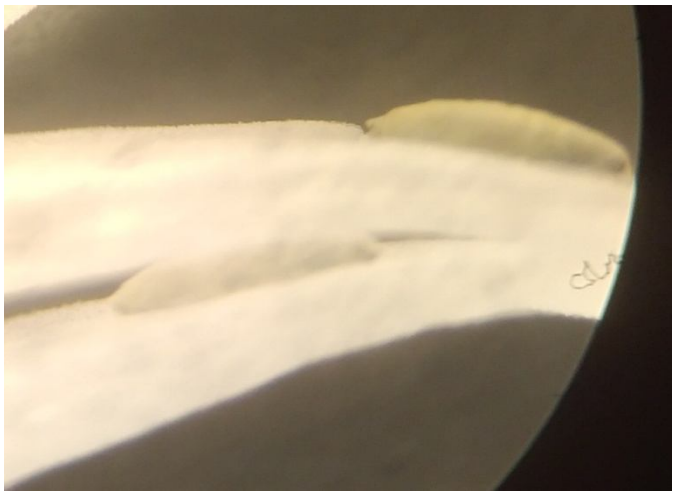
写真は、ヤグラタケを食べる「カマドウマ」である。後脚にまだら模様があるので、これは成虫だ。カマドウマは軒下や屋内の水場を好み、下水道の中を泳ぐこともできる「ツワモノ」である。このカマドウマは、真夜中に 20 分以上キノコを食べ続け、成長したヤグラタケ（クロハツの上に腐生している）の半分ぐらいを平らげてしまった。キノコなんて、いかにも栄養がなさそうだし、ほかに栄養価の高いエサはいくらでもありそうだが、なぜかキノコを好む。

虫ではないが、イノシシもキノコを好んで食べる。よく考えたらヒトもキノコを好む。特に日本人はキノコ好きの民族だ。キノコにはさまざまな「うま味成分」（アミノ酸）を含んでいるからだろう。

キノコムシは、小さな甲虫の一種で、幼虫も成虫もキノコを餌とする。写真のキノコムシは、猛毒のシロタマゴテングタケを棲みかにしていた。



これは「ルリオオキノコムシ」という、非常に美しい種類。ヒダの中には卵や幼虫も見られた。



キノコバエは幼虫がキノコを餌にする。顕微鏡で猛毒のシロタマゴテングタケのヒダの隙間を観察すると、大きさ 1mm にも満たない小さな半透明の幼虫がたくさんいて、盛んに菌体を食べていた。